

1 研究主題

子どもたちが生き生きと活動する総合的な学習の時間の創造

2 はじめに

「総合的な学習の時間」は新学習指導要領全面実施に先立ち、平成30年度から移行措置として先行指導が始まっている。また、令和2年4月より各教科を始めとする学校全体の教育活動を通して「キャリアパスポート」の運用が始まった。改訂によって、総合的な学習でも他の教科と同様に「育成すべき資質や能力及び態度」が明確に規定された。例えば、探究のプロセスとして「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という能力を身に付けることである。そして、その資質や能力を育てるにあたり、小・中学校においても、地域の素材を活用しながら育成することが大切であると言われている。

小牧市内の各小中学校においても、今日までそれぞれの地域性を生かした「総合的な学習の時間」をカリキュラム化し、学習活動を展開してきた。本研究会では、研究主題にもある「子どもたちが生き生きと活動」できるよう、①自ら課題を見つける力、②課題を解決するための情報収集をする力、③調べたことを整理・分析する方法、④整理したことを、まとめ表現していく方法などについて、各校の取り組みやそこで見られた児童生徒の姿を実践報告によって持ち寄り、研究した。

3 研究経過

小学校部会・中学校部会に分かれて研究を行っている。各部会の中で、月ごとに検討するテーマを設定し、各校での取り組みや成果、課題などの意見交換を行った。意見交換の際、実際に使用した指導案や提案文書、子どもに配布した資料を持ち寄るようにした。また、持ち寄った資料は、データでも共有できるよう、交換箱内にフォルダを作り、蓄積できるようにした。

4 研究の概要

(1) 小学校部会

小学校部会では、各校の実践報告・情報交換を中心に行った。各校の実践報告では、地域の特色を十分に吟味したうえで活動に取り組むとともに、工場見学や体験学習など、児童が意欲的に活動に取り組む様子が報告された。また、活動をより充実させるために、地域の方々に協力を依頼し、活動をより充実させようと努力している各校の現状を詳しく知ることができ

た。また、生徒の発達段階を考慮し、1年区切りでなく先を見通した指導計画を立てていくことがいかに大切であるか話し合った。それぞれの発達段階に応じて「何を学ばせ。子どもたちのどんな力を育てていくことが大切か。」子どもたちの実態に沿った手立てはどのようなものがあったかなど、具体的な意見交換を行った。

(2) 中学校部会

昨年度までコロナウイルス感染症の拡大により実施できていなかった職業人体験学習、宿泊学習の実践報告などを行い、今後継続的にこれらの活動を行っていくことができるのか。それに変わる活動で子どもたちに「何を学ばせ、どんな力を育むことができるのか」各校の実践をもとに話し合ってきた。

また、SDGsに関わる各校の取り組みや実践報告を聞き、生徒の発達段階に見合った学年ごとの活動をどのようにすすめていくことができるのか。生徒にとって価値があり、有意義なものになるよう、今後の取り組みについて情報共有を図った。

4 成果と今後の課題

(1) 小学校部会

地域の特色を生かした取り組みをすることで、子どもたちは自分たちの生活に身近なものに触れ、意欲的に活動に取り組めるようになったと言える。各校の実践報告を聞き、情報共有することで、それぞれの学校にもどった時に児童の活動に生かしていくことができた。

多くの学年の実践報告、活動状況を共有することで、子どもたちの発達段階を考慮し、6年間を見通した活動計画を立てていくことで、子どもたちの「生きる力」を育むことができるのではないか。今後とも子どもたちが生き生きと活動できる取り組みを検討していきたい。

(2) 中学校部会

今年度3年ぶりに行うことができた「職業人体験学習」の実践報告を聞き、やはりただ見たり、聞いたりすること以上に実際に「働くこと」でしか得られないものがあり、生徒たちの職業観を高められる手立てとして、価値があるものだとして改めて認識した。

ただ、今年度も昨年同様実施できなかった学校もあり、多種多様な事業所を確保していくことは依然として難しいため、今後継続して取り組める活動のあり方を考えていくことも必要なことだと言えるのではないだろうか。

また、今年度から各校が新たに取り組むようになったSDGsに関わる実践についても、各校がもっている情報を共有し、ともに生徒にとって有意義な取り組みになるよう、その方法を模索していきたい。